

ピアノの練習

先月6日、サントリーホールで「こども定期演奏会」がありました。小学生の子どもプレーヤー2人と連弾をしたのですが、「なんと、しっかりしているのだろう」と感心してしまいました。

私が小学校低学年の頃は、ピアノは好きでしたけれど練習は嫌い。自覚もなく、単に先生に喜んでもらうために練習をしているような感じでした。子供のピアノですから、あちこち弾けない所だらけな



©Hideki Otsuka

小山実稚恵

ピアノと私

137

公演情報

小山実稚恵 サントリーホール・シリーズ
Concerto 〈以心伝心〉2025
～小山実稚恵デビュー 40周年記念～

10月12日(日) 16:00

サントリーホール

ウラディーミル・フェドセーエフ(指揮)

東京フィルハーモニー交響楽団&フェドセーエフ・フレンズ

チャイコフスキー：ピアノ協奏曲第1番

ラフマニノフ：ピアノ協奏曲第2番

問い合わせ：サントリーホールチケットセンター

☎0570-55-0017

自覚があり、向上心も旺盛。さらには家族の協力体制も完璧なので、一直線にピアノに向かって歩んでいる感じです。リハーサルの時に気付いたことを、ちよつとアドヴァイスすると、それらを即座に理解し、本番では自分のものにしてしまふのです。見事な演奏でした。普段から中身の濃い練習を積んでいるのでしょう。大変な時代の凄

い子供たちです。

「小山さんは1日何時間練習するんですか？」と尋ねられることが時々あります。その答えにグツと詰まり、嘘でも本当でもない「平均すれば4時間ぐらいなのかなあゝ、もつと少ない日もあるし多い日もあるし」と、極めて曖昧な返事をしています。本当に答えようがないのです。ヴァイオリンなどと違ってピアノは持ち運べない楽器ですから、移動や旅の滞在では楽器に触れられないこともしばしばです。弾きたいと思っても楽器がなければどうしようもない。

なので私は、若い頃、演奏活動を始めたころから練習時間を決めないことにしていました。今やそれが普通になり、弾けなくても仕方ないという考えに、心と身体が順応しています。ピアノを弾かない日もたくさんありますが、どうしても弾きたいのに弾けない状況の時には、楽譜を眺めてピアノの音を思い浮かべて、気持ち(頭の中?)でピアノを弾いています。

ショパン国際ピアノコンクールの審査員を務めた時、ホテルの部屋には電子ピアノが置いてありました。でも、やはりその電子ピアノを弾くことはほとんどありませんでした。

バレリーナは「1日練習しないと自分にわかる。2日だとパートナーにわかる。3日になれば聴衆にわかる」のだそうです。それはピアノには無理なこと。考えてみれば、ピアノは心や体にやさしい楽器なのです。だからピアノニストは長生きの方がいいのかもしれない(笑)。

小山実稚恵

KOYAMA MICHIE 東京藝大卒、同大学院修了。1982年チャイコフスキー国際コンクール第3位。85年ショパン国際ピアノコンクール第4位。「12年間・24回リサイタルシリーズ」(2006～17年)や「ベートーヴェン、そして…」(19～21年)は、その演奏と企画性で高い評価を受けた。2022年より、サントリーホールにおける新シリーズ企画「Concerto 〈以心伝心〉」がスタート。オーケストラや指揮者からの信頼も厚い。ショパン、チャイコフスキーの2大コンクールなどの審査員も務める。17年度紫綬褒章を受章。仙台での「こどもの夢ひろば」のゼネラル・プロデューサーを務める。